

三木 万紀子(2006文)

開放的な雰囲気の中で、焼き立てのステーキを頬張ることを忘れるくらい、様々な方とお話を楽しませていただきました。時間が経つのがあっという間で、まだまだお話できていない方が沢山いらっしまったのが残念でなりません。ビンゴは参加賞だけでも十分なお得感！最後の校歌斉唱で一気に会場の方々と一体になりました。

富澤 多幸(1995法)

大田稲門会リベンジ納涼祭企画初参加。当日は天候にも恵まれ、オープンテラスで同窓の皆様と飲むビールは最高でした。卒業後随分と月日が経ちましたが、当時の学生生活の思い出話で盛り上がった会に参加できたことに感謝しております。校歌斉唱時の高揚感は何年経過しても変わることなく、ワセジョとしての意気込みを思い出す瞬間でもありました。大田稲門会の一会員として、引き続きよろしく願い申し上げます。

西川 聡(1985法)

6月の新入会員歓迎会に参加させていただき、今回2回目の大田稲門会の参加となりました。屋上のお店で大好きなBBQを先輩方と楽しませていただきました。初めてお会いした同じテーブルの先輩方でしたが、温かく接していただき、すぐに早稲田で過ごした空気を共有することができました。これからの活動も楽しみにしております。

「ゾクッと総括」

神戸 隆一(1975法)

「リベンジ納涼祭」とは変わった会の名前。コロナで中止になり、無くなりかけた納涼祭。コロナに負けるものかと、少々遅れたがリベンジに大成功という訳。執念の納涼祭ともいえる。恒例行事の開催を大切にするのが大田稲門会。いま、このような恒例行事がさらに充実しつつある。ますます楽しく、忙しくなる予感がする。

開放感あふれる屋上のテラスで、パーティー形式のイタリアンバーベキュー。先輩も後輩も和気あいあいと楽しめる会場の選定を幹事に感謝。たまたま、写真部「写楽」のメンバーが近くに座り、楽しく盛り上がらせていただいた。部会活動が充実しているのも大田稲門会の特徴だ。遠くに転居して久しぶりに会うメンバーもおり、恒例行事の存在価値を再認識。

夜も暗くなり、会が終焉に近づくと、夜空に響く「都の西北」。隣のマンションから応援してくれる方々もチラホラ。なんと、一緒に腕を振っている。きっと、稲門なのだ。まさか「うるさい」と、怒りで腕を振り回していたのではないことを祈りたい。

二次会が大好きな大田稲門会。優秀な幹事がぬかりなく二次会も用意をしている。一次会では語り足りぬ、飲み足りぬ、歌い足りぬ、多くのメンバーが参加。二次会では、ほんの少し羽目を外して、またまた早稲田の歌を歌う。

私のスケジュール表は稲門会関連行事を早稲田カラーの赤紫にしている。最近、スケジュール表が赤紫だらけになってきた。今日のような楽しい行事が、まだまだ私を待っている。ゾクッ！